

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	言語聴覚
学籍番号	16S3062	院生氏名	櫻岡 絵里香
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	失語症の談話における意味伝達の特性と関連要因 －失語型と意味の正確性・完全性からの検討－		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>コミュニケーションでは、伝えたい意味(メッセージ)をまとめ、それを話の筋に合わせて構成し、前後の語や文との関係において語を選択し、文構造を決定して「談話」として意味が伝わる。本研究は意味内容を適確に伝えるという談話能力が失語症者では低下しているということに着目し、その分析を試みたものである。失語症者20名(非流暢性失語症群10名:すべて左大脳前方損傷, 流暢性失語症群10名:すべて左大脳後方損傷, 対照健常年齢統制者15名)を対象に、談話における意味伝達の特性を命題の正確性と完全性から検討し非流暢性失語と流暢性失語の差異を研究したものである。課題は日常的な場面に複数の人物と事象を描いた情景画を用い、健常者から得られた基準的な命題に比較する形で、失語症者の談話を分析した。その結果、非流暢失語症群は語彙機能の障害が関与して不完全な意味で談話機能が低下し、流暢失語症群は統語機能が関与して不正確な意味の伝達になるために談話機能が低下すると結論付け、失語症者の談話機能の特徴を明確化した。</p> <p>倫理については国際医療福祉大学大学院倫理委員会(承認番号16-Io-210)と研究実施施設の倫理審査委員会(船H29-13, 初29-34)の承認を得て、規範を遵守した研究であり問題ないと判断している。</p> <p>本研究論文の新規性は、非流暢性失語者と流暢性失語症者の談話障害の特徴とその原因を見極めたところにあり、失語症者の談話能力の向上に貢献するところが大きい研究として高く評価できる。</p> <p>審査は12月3日に行われ、質疑応答にも博士としての十分なレベルで明確な回答をしたことが認められた。方法などに多少の修正が必要な箇所があったので、後日論文の修正を求めたところ適切に修正されていることを審査員全員で確認した。</p> <p>以上より、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(言語聴覚学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 前田真治</p> <p>副 査 内田信也</p> <p>副 査 菅野倫子</p>		